

競技運営に関する注意事項

埼玉県野球連盟東部連合会

本大会は本年度公認野球規則・競技者必携に定める規則、取り決め事項を適用して行う。

- (1) 代表者会議で説明または決められた事項は、必ずチーム全員に徹底させること。
- (2) 参加申込書（参加原簿）提出後は、選手の変更・追加・背番号の変更は認めない。
- (3) ベンチは、組合せ番号の若い方を1塁側とする。
- (4) その日の第1試合のチームは、試合開始予定時刻の90分前までに会場に到着し、大会本部に報告し、大会で定められた打順表(5枚複写)を受け取り、登録済選手の全員の氏名を記入し提出する。
- (5) 打順表（登録された選手全員を記入し、フリガナをつけること）の提出は、その日の第1試合は、試合開始予定時刻30分前までに、第2試合以降は、前の試合の4回終了時までには監督または主将が大会本部に提出し、登録原簿との照合の後、球審立会いのもとに攻守の決定をする。
- (6) シートロックは行わない。
- (7) 球場内でのフリーバッティングは禁止する。
- (8) 先発バッテリーのブルペンでの投球練習は禁止する。
なお、天候や試合状況及び球場等を考慮するときは、本部から指示する。
- (9) その日の第1試合に出場するチームは、外野地域に限り練習で使用してもよい。その際、アップ用の服装（同一が望ましい）でもよいが、打順表提出時には、全員ユニフォームに着替えること。
- (10) 第2試合以降のチームは、グラウンドの整備中に限り外野のフェールグラウンドで練習を行ってもよい。
- (11) ベンチ内での電子機器類（携帯電話・パソコン等）及び携帯マイク等の使用は禁止する。ただし、メガホンはベンチ内に限り1個の使用を認める。
- (12) 第2試合以降は、試合開始予定時刻前でも、前の試合が終了した後20分を目安に次の試合を開始する。試合開始時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
- (13) 組み合わせ表にある試合開始予定時刻はあくまでも予定であり、第2試合以降のチームは、予定時刻の90分前までに集合し、チーム代表者は、大会本部に到着を報告すること。
- (14) ベンチに入れる人員は、登録されたユニフォームを着用した監督30番、選手20名以内と、チーム代表者、マネージャー、スコアラーの各1名とする。（スコアラーが女性の場合は、スポーツ行事にふさわしい服装をしてベンチに入ること。）
- (15) サングラスの使用については、特に制限はないが、投手のミラーレンズは使用できない。

- (16) 試合中、ファールグラウンド（ブルペン等）でウォーミングアップを行う場合、その人数は2組（4名）以内とする。（バッテリー及び野手を含む）
- (17) 選手のスパイク使用については、特に色・模様について制限を設けない。
- (18) 選手の背番号は、0～99まで使用可能とする。ただし、監督、主将は従来通りとする。
- (19) 大会で使用するボールは、各チームで1試合2個（ナガセケンコーボール・新品）を試合前、大会本部に提出すること。
- (20) ローゼンは各チームで用意すること。
- (21) 参加チームの監督、選手は、傷害保険に等に必ず加入すること。

大会を棄権した時の処理内規

◎チームに対する処置

- (1) 棄権した原因がチームにある場合
そのチームは1年間各種大会への出場停止。

- (2) 不慮の災害により棄権した場合
下記の場合はやむ得ないものとし特別な処置は行わない。
 - ① 天災により参加不可能となったとき。
 - ② 集団罹病により参加不可能となったとき。
 - ③ 交通事故により参加不可能となったとき。

- (3) その他の場合
埼玉県野球連盟東部連合会の理事会で決定する。

◎支部に対する処置

翌年度の同種大会への支部代表の出場停止、その他の処置をされることがある。

大会規律

大会において不正を行いたるチームに対しては次の処置を行う。

- (1) 試合中に発見された場合は、相手チームに勝利を与える。
- (2) 試合終了後に発見された場合は、次の対戦相手チームに勝利を与える。
- (3) 決勝戦終了後に発見された場合は、準優勝チームを優勝チームとする。

競技上の注意事項・大会特別規則

(1) 正式試合

- (イ) 試合は9回戦とする。暗黒・降雨などで9回までイニングが進まなくとも、5回(4回2分の1)が終了すればゲームは成立する。
- (ロ) 得点差によるコールドゲームは、5回以降10点差、7回以降7点差とする。

(2) 延長戦

本大会は9回(決勝に限り12回までとする)を過ぎても勝敗が決しないときは、特別延長戦を行う。

(3) 特別延長戦(タイブレーク方式)

継続打順で、前回の最終打者を1塁走者とし、その前の打者を2塁の走者とする。すなわち、0アウト1、2塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお、勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返す。なお、通常の延長戦と同様に規則によって認められる選手の交代は許される。ただし、特別延長戦は、2イニングまでとし、なお勝敗が決しない場合は、抽選とする。

(4) 特別継続試合

暗黒・降雨などで、5回(4回2分の1)以前に中止になった場合、また5回を過ぎ正式試合になって、同点で試合が中止の場合も再試合としないで、次の期日の第1試合に先立って特別継続試合を行う。

(5) 特別継続試合の再開

- ①もとの試合が中断された箇所より再開する。
- ②両チームの出場者と打撃順は試合が中断されたときと全く同一でなければならない。ただし、規則によって認められる選手の交代は許される。
- ③もとの中断された試合に出場して、途中他のプレーヤーと交代してその試合より退いたプレーヤーは、再開される試合には出場できない。

(6) 抗議権を有する者

監督または主将と当該プレーヤーの内1名とする。

(7) 監督・コーチ等が投手のところへ行く回数の制限

- ①監督またはコーチ等が、投手のところへ行ける回数は、1試合に3回以内とする。なお、延長戦(特別延長戦を含む)となった場合は、2イニングに1回行くことができる。投手交代の場合は、監督またはコーチ等は上記の回数に含まない。
- ②監督またはコーチ等が、同一イニングに同一投手のところへ2度目に行くか、行ったと見なされた場合(伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。交代した投手が、他の守備位置につくことが許される。なお、他の守備位置についたときは、同一イニングには再び投手に戻れない。

③監督またはコーチがプレーヤーとして出場している場合は、投手のところに行けば、野手としての1度と数えるが、協議が長引けば、監督またはコーチが投手のところへ1度行ったこととして通告する。(野球規則 5.10 (0))

(8) 守備側のタイムの回数制限

①捕手または内野手が、1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内とする。

なお、延長戦となった場合は、2イニングに1回行くことができる。野手(捕手を含む)が投手のところへ行った場合、そこへ監督またはコーチ等が行けば双方1回として数える。(逆の場合も同様とする)

②攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることはできるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の1回とカウントされる。

(9) 攻撃側のタイムの回数制限

①攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。

なお、延長戦となった場合は、2イニングに1回とることができる。

②守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることはできるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。

(10) 試合に出場する捕手は、安全のためにプロテクター・レガース・マスク・捕手用ヘルメット・ファルカップを着用すること。また、打者、次打者、走者及びベースコーチは、必ず耳付きヘルメットを着用すること。(いずれも公認されたもの)

(11) 試合中、攻守交代時に限り、控え選手が外野の方向へのランニングを認める。

(12) ユニフォームのストレートズボンに認める。また同じチーム内にストレートタイプと異なったズボンをはいていても、同色、同衣装であれば差支えない。

(13) 選手のネックウォーマーを認める。ただし、ピッチャーは紺または黒色とする。

(14) 故意四球「申告敬遠」については、監督がタイムを要求し、故意四球の意思を球審に示すこと。球審はタイムをかけて打者に1塁へ進塁の指示を行う。投手の投球数に含まない。

(15) 本年度より、幸手市の運動公園内(ひばりヶ丘球場を含む)は「禁煙」となりましたので、ご協力をお願いします。

試合中の禁止事項

- (1) マスコットバットを次打者席に持ち込むことは差し支えないが、プレーの状況に注意し、適切な処理をする。球場内での素振り用リング及び鉄パイプの使用を禁止する。
- (2) 投手が手首にリストバンド、サポーター等を使用することを禁止する。負傷等で手首に包帯を巻く必要があるときは、大会本部等の承認が必要である。
- (3) 危険防止のため、足を高く上げてのスライディングを厳禁する。現実にこれが妨害になったと審判員が認めた場合は、守備妨害で走者をアウトにする。

- (4) 作為的な空タッチを禁止する。現実に妨害（よろめいたり、著しく速度が鈍った場合）になったと審判員が認めたときは、オブストラクションを適用する。
- (5) プレーヤーが塁上に腰を下ろすことを禁止する。
- (6) 守備側からの「タイム」で試合が停止されたときは、その間、投手は捕手を相手に投球練習をしてはならない。
- (7) 捕手用ヘルメットとマスクの一体製品は使用禁止とする。
- (8) 試合が開始されたら、控えの選手は試合に出場する準備（交代選手のキャッチボール）をしている者の他は、ベンチ内にいなければならない。
- (9) 次打者は、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。
（投手も必ず次打者席に入ること）（5.10 K 【注1】）
- (10) 塁上の走者、コーチボックス及びベンチから、守備側（捕手）のサインを盗み、それを打者に伝達することを禁止する。
- (11) 試合中の喫煙及びガムをかむ等は禁止する。
- (12) チャンスや得点を挙げたときなど、みだりにベンチ内のリーダーが音頭を取って、声を揃えて歓声をあげ拍手するようなことはしてはならない。
- (13) 相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は厳禁とする。また、スタンドで自チームの側の野次もチームの責任とする。
- (14) もめごとの際、審判員や相手側のプレーヤーに手をかけることを厳禁とする。

試合のスピード化に関する事項

- (1) 攻守交代は、駆け足で行うこと。ただし、投手に限り、内野手地域は歩いても差し支えない。また、監督、コーチの投手のもとへの行き帰りは、小走りでスピーディーに行うこと。
- (2) 投球を受けた捕手は、すみやかに投手に返球すること。また、捕手より返球を受けた投手は、すみやかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
- (3) 打者はすみやかに打者席に入り、バッターボックス内でベンチ等からのサインを見ること。
- (4) 試合中、スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。
- (5) 内野手の転送球は一回りとする。
各イニング（表・裏）の始めに捕手が二塁へ送球したときだけとし、それ以降は認めない。また、天候状態、試合の進行状況によっては、審判員の判断で途中からでも全面的に禁止する場合もある。
- (6) 攻守交代の際、最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻ることに。
- (7) 代打または代走の通告は氏名とともに、「代打者」または「代走者」の背番号を球審に見せその旨を告げることし、球審も放送席に向かって選手の背番号を見せて「代打または代走」と告げること。

(8) フェールボールの球の処理について

- ① ベンチ側に飛んだものは、ベンチサイドで拾い球審に手渡す。
- ② 捕手の後方に飛んだものは、攻撃側で拾い球審に手渡す。

(9) 雨天の場合

- ① 雨天中止の場合は、大会日順延とする。
(大会予備日は、10月19日(土))
- ② 雨天の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な場合は試合を行う。
- ③ 当日試合をすべて行わない場合と、午前中見合わせて午後より行う場合があるので、チームより積極的に問い合わせること。(チームを代表する一名)

なお、雨天決定時刻は原則として午前6時30分とする。